

【 アンケートの質問 】

Q 鈴木先生へ：これからのさたけん家の課題・これからへの具体的な方策は？

A 鈴木先生

・千里ニュータウンを生かしていない

→ご存知のとおり千里ニュータウンは日本全国からの見学が多い町です。さたけん家はこうした見学者に対する受け入れ窓口になれる可能性があります。先日、私の所属するディスカバー千里（千里ニュータウン研究・情報センター）の太田博一さんが佐竹台のまち歩きを実施したところ、太田さんの知識に加えて、様々な世代の住民とそれぞれの思い出が飛び交い、通常のまち歩きよりずっと面白かったです。彼らのような住民が自分の町である千里について見学者を案内できるようになればよいと考えています。

・書店の中にあることを生かしていない

→まちライブラリーを開設し実験的に読書会を2回開催したところ、本を話題にすることで初めての人も深く話せることがわかりました。本やテーマの設定を工夫することで、これまであまり来ていない世代や属性の人が来るきっかけをつくれると考えています。

Q さたけん家へ：これからの課題は？

A 市民レベルの問題は市民で解決できる居場所にするということです。

Q さたけん家へ：スタッフをどのように集められましたか？

A 中心となっているメンバーは、PTA や自治会つながりです、そこからその知人へという感じです。

Q 水木へ：「世界の平和は家庭の不和」という格言があります。水木さまのご家庭は平和なご家庭だと思いますが、その秘訣をお教えてください。

A 平和な家庭ではないので…ただ個人を尊重することでしょうか…子どもも含めて

Q 浦濱さんへ：青少年対策委員会のお仕事について教えてください。ひきこもり(生きづらい)→就労支援に関わっています。

A 青対として直接出来る事はないのが現状です。1.吹田市の関係機関の紹介は可能ですが、もう既に相談に行かれていると思うし、2.青対のスタッフとして活動して頂く事は可能ですが、無理やり引きずり出す事も出来ないし…就労支援…もう大人ですよ。結局本人がなりをしたいか解らないと青対としてどう支援していけるか答えようがないところです。また、地区ごとに活動内容も違うので…多くの地域ではイベントを中心に行っていると思います。

Q 水木さんへ：活動を継続していくと、利用者に占める常連さんお比率が高くなっていく傾向はないのでしょうか？居住者が転出入で流動する中で新たな住民の方にも利用を広げていくための情報発信(広報)で特に工夫をされていることがあれば教えていただきたいです。

A さたけん家は地域に根差した“家”のような場所を目指しているので、地域の方が常連さんになってくれる方がいいと思っています。通信は、小学校と自治会、幼稚園、保育園、福祉施設などを通して

配布していただいているので、新しく入って来られた方にも何らかの形で知っていただけたらと思います。HPやFacebookでも報告をしています。

Q「検証」の部分のスライドが見えなかったのですが、そこが知りたいです。冊子になかった。

A ホームページなどにUPします。

【グループワークでの質問】

Q 思いがあればできるのか？何が必要か？

A 何をやるかによるとは思いますが、なんらかのことはできると思います。必要なものは行動力かな…

Q どうしたら永く続けられるか？

A たくさんの方の手助けを得ることかな…

Q 視野を広げるために何をしているか？

A 特に気にかけていることはないですが、子どもたちのためにという思いが、いろいろと考えさせてくれる気がします。

Q 第2の水木さんをどうやって生み出すのか？どうつくればいいのか？

A 今の若い方は、女性でも高学歴だったり、仕事をした経験がある方がほとんどなので、力は持っています。それを生かせるのは、先を生きる方たちだったり、行政だったり、以下に活動してもらえようような舞台を用意するのだと思います。それが出来れば自然に出てくると思います。

Q さたけん家は特異事例なのか？一般化できる(すべき)事例なのかどうか？全校区に水木さん(交渉術)はいないのではないのか？

A さたけん家に限らず、市民が立ち上げるものは詳細までを含めると一般化できるものではないと思います。ただし、基本の部分は一般化できると思いますし、一般化すべきだと思います。そうすることで、私みたいな特異な人がいなくてもできる仕組みとなるのだと考えます。

Q 民間が公共施設を運営するにあたって財源の確保はどうしていけば良いか？

A 民間のみで行うものは、利益を生み出す活動がないと厳しいと思います。寄付も手立ての1つではありますが、寄付を募らなければ続けられない仕組みは、公共性の高い活動を行い、幅広い支持を得る必要があると思います。

Q 当事者の課題解決は、行政の在り方を変えないと現状ではフィットしないのではないのか？

A 行政の担当者は数年で異動となりますので、ネットワークの軽い取り組みや、息の長い取り組みは不向きなこと、ヒューマンスケールの問題は、暮らしを営む人が一番わかっていることから、市民が先例を作る方法もあっていいのではと思います。

Q7割のしんどさは？

A 自分の生活、仕事、家事、家族の生活、など普通に暮らしていることに加えての活動であるため、かなり時間的に厳しい生活となること。加えて無償の活動であっても、周知されるにしたがって、「お金儲けをしている」などの陰口を言われたりなどすべてあげればきりがなくいろいろありました。

Q 水木さん以外にもキーパーソンはいるのか？その人たちをどう巻き込んだのか？

A 大家さんをつないでくれた店長の新名さんがキーパーソンと言えらると思いますが、誰が欠けても困るけれど、誰がお休みしても大丈夫なゆるい集合体と言えらると思います。どう巻き込んだかは、自分の利益のための活動でなければ、共感してくれる人が出てくるのだと思います。

Q 水木さん自身この地域に長く住んでいる訳ではないのにどうやって巻き込んだのか？

A もともとニュータウンは新しい住民で作られた町なので、ヨソモノに対しても寛容な気がします。地元の人でないことで動きやすいというメリットもありますし。巻き込みに関しては上記記載。

Q オーナーさんとの関係性は？

A オーナーさんは大家さんのことですね。大家さん自体が活動を支持してくれているので、5年間続けて来られたので感謝しています。細かいことでは意見の相違はありますが、目的が同じだからこそクリアしてこられたのだと思います。

Q 次の展望はどう考えていますか？

A 福祉的活動が出来るような仕組みとすることです。

Q 各地域歴史という＝地域の祭りがある⇒世代間を超えた集まり その祭りを上手くつかって新たな人を取り込めないか？

A 佐竹台には寺社仏閣がないため、歴史のある祭りと言うものはないのですが、毎年市域で夏祭りは開催しています。さたけん家も参加しているので、たくさんの方にお立ち寄りいただいています。100人のお客さんより1人の自分事に考えてくれる方と繋がることの方が、その先の展開があると思っていますので、非日常よりも日常で繋がっていきたくと思っています。

Q 水木さんへ：ご家族、お子さん、お仕事をお持ちで、これだけの時間と力をどのように使い分けておられるのですか？

A 使い分けられてないですよ(苦笑)。睡眠時間を削り、家事を手抜きしやっています。子どもたちには、が子どもたちを大切に思っているということが伝わる努力はしています。手伝ってくれる仲間がいれば、なんとかなるものだと思います。

Q 関心のある人、ない人が極端ではないか？

A そうだと思います。しかし、私と全く同じ考えを持ってもらおう、同じように動いてもらおうとは考えていないのです。関心のあるところ、自分ができるところで関わってもらえれば、そこから何かを感じてもらえたらいいと思います。

Q 子どもって習い事 etc で忙しいんじゃないの？

A 忙しいと思います。

Q 「コミュニケーション下手」な子ども、多くない？

A データがあるわけではないので、何とも言えませんが…仮に多いとすれば、環境や今の大人の影響だと思います。

Q 新しいプロジェクトを立ち上げる時のアドバイスを何でもいいので教えてください。

A 何を立ち上げるかによって変わると思うのですが…私は共感してくれる人をたくさん見つけることだと思います。

Q 人の可能性を引き出す方法は？

A その人の背中を押すことでしょうか…

Q 40 代の人を中心にしているのに感動、40 代の人はどうしたらこんなにたくさんの方がかかわれるか？

A さたけん家の 30~40 代のたちは、もともとは PTA でのつながりの方々です。学校行事やさたけん家を作る過程で、一緒に活動してきたことがつながりの基礎になっています。さたけん家が出来てからのつながりは、関わってくださる方にも、さたけん家にも地域にもメリットのあるような、三方よしを考えて活動をしていたからこそ、関わってくださる方が増えていったのだと思います。

Q ニーズをどうやって吸い上げてプロジェクトとして実現していったのですか？必要と思われることを小さくはじめて形にしていきました。

Q 助成終了後の次の展望は？

A 今年度の助成は提言検証助成で、さたけん家の運営のための助成ではないので、資金的にサポートされたわけではなく、3 年間は自主運営をしてきました。今後の展望は、自治体を含め様々な方たちと協働で居場所の在り方を考えていくことです。

Q カフェの存続をはかるための長期プランの工夫は？

A カフェの存続が目的ではなく、人が集い助け合える居場所の継続が目的です。この場所を継続して欲しいと思ってくれる人が多ければ多いほど、存続の可能性が大きくなると思いますので、日々努力するだけだと思っています。

Q 新しい人も入りやすい、世代交代もできる工夫は？

A 何らかのメリットが提供できる工夫だと思います。